

エコアクション21

環境経営レポート



レポートの対象期間 : 2022年11月1日 ~ 2023年10月31日

レポートの発行日 : 2024年3月25日



株式会社タイホープロダクト

I. 組織の概要(事業所名、所在地、事業の概要、事業規模等)

1. 事業所名及び代表者氏名

株式会社 タイホープロダクト
代表取締役社長 大竹 康智

2. 所在地

本社・工場 〒379-2304 群馬県太田市大原町2483番地

3. 環境責任者氏名及び担当者連絡先

代表責任者	代表取締役社長	大竹 康智
環境管理責任者	代表取締役社長	大竹 康智
担当	環境管理事務局	同上
連絡先	TEL	0277-78-4300
	FAX	0277-78-7020
ホームページアドレス	http://www.tohgoku.or.jp/~taihopro/	

4. 事業活動の内容についての簡単な記述

- (1) OA機器用ステッピングモーター組立製造
- (2) 自動車用各種コイル(ソレノイド・センサー・リレー)、モールドコイル設計製造販売
- (3) 小型電流センサー・磁気式ロータリーエンコーダー設計製造販売
- (4) 光関連超精密機械加工、一般精密金属加工
- (5) 電子応用機器開発組立全般、プラスチック成型加工
- (6) 電気医療機器設計製造

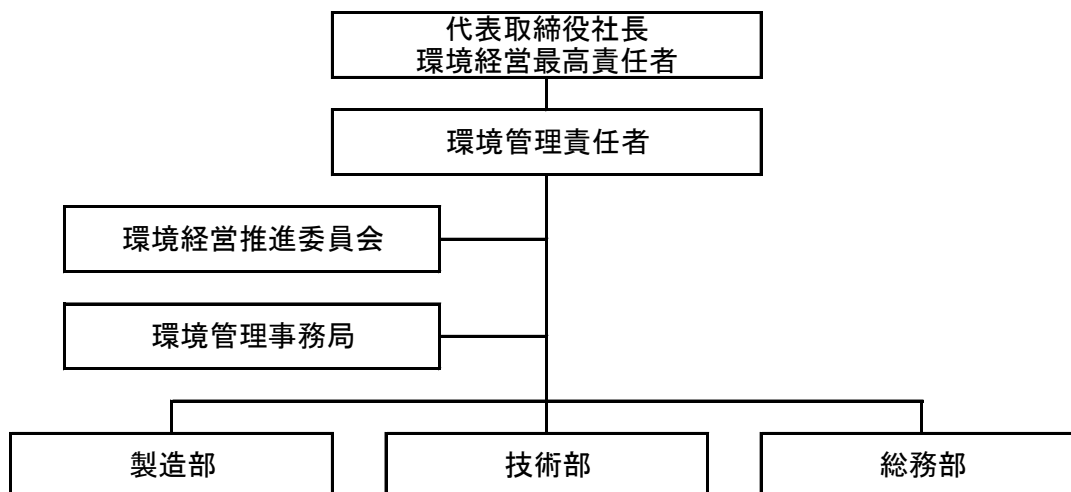
5. 事業の規模

従業員数	37名
建築面積	1163㎡
資本金	3000万円

II. 対象範囲(認証・登録範囲)

登録組織名	株式会社タイホープロダクト
対象組織	本社・工場
対象活動範囲	OA、自動車用コイル部品・センサー及びメカトロ製品等の設計開発、製造及び販売

環境経営システムの運用組織



Ⅲ. 環境経営方針

<基本理念>

株式会社タイホープロダクトは、誠意と創意をもってかけがえのない地球を守る環境保全活動を追及します。

<行動指針>

株式会社タイホープロダクトは、アクチュエータやセンサの事業活動が環境に何らかの影響を与えていることを認識し、環境負荷を低減し環境保全に努めるため、以下の「行動指針」を推進します。

1. 事業活動の全領域で省資源・省エネルギーなどに配慮します。
2. 以下の事項を重点的なテーマとして、環境目標を設定し、必要に応じて目標を見直します。
 - 1) CO2排出量、廃棄物排出量の改善目標管理及び、「環境への負荷チェック」の結果、著しい項目の改善目標管理。
 - 2) 化学物質の管理を強化して、取扱量、移動量、排出量を把握して、リスク発生を予防すると共に、情報開示を行う。
 - 3) 環境負荷低減に資する製品設計を推進する。
3. 国や地方自治団体等が定める環境関連法令及び利害関係者(地域住民、従業員、業界団体)の要求事項を遵守し、可能な範囲で自主管理基準を設けて環境レベルの向上を図ります。

—この環境方針は、社外の人にも公開します—

2018年11月1日
株式会社タイホープロダクト
代表取締役社長

大竹 康智

IV. 環境目標とその実績

1. 今年度(2022年11月～2023年10月)の環境目標と実績

環境目標項目	単位	基準値	22/11～	23/11～	24/11～
			実績値 効果値	目標値 効果値	目標値 効果値
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂ /百万円	238.3	169.92 -68.38 総量(kg-CO ₂) 89206.84	220	200
廃棄物排出量の削減	kg/百万円	5.38	4.48 -0.9	5.1	5
総排水量の削減	m ³ /百万円	0.92	0.85 -0.07	0.9	0.88
化学物質使用量の削減	製品数	0	0 0	0	0
環境配慮製品の開発	度数	1	1 1	1	1

基準値は、2021年実績とした。上段は実績値(原単位)または目標値、下段が効果値。
二酸化炭素排出係数は、日本テクノ2017年度調整後0.416kg/kwhを使用しています。

2. 過去の実績

環境目標項目	単位	基準値	16/11～	17/11～	18/11～	19/11～	20/11～	21/11～
			実績値 効果値	実績値 効果値	実績値 効果値	実績値 効果値	実績値 効果値	実績値 効果値
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂ /百万円	412.6	308 -8.00%	321 -4.10%	290 -13.40%	313.7 -3.5%	225.72 -30.5	238.3 -28.9
		総量(kg-CO ₂)	118725	110438	108421	95045	96832	104139
廃棄物排出量の削減	kg/百万円	5.07	5.90 -2.2%	6.34 5.1%	6.34 5.1%	3.28 -43.9%	1.9 -67.5	5.23 -13.3
総排水量の削減	m ³ /百万円	1.07	1.08 -23.0%	1.99 42.1%	1.6 18.0%	1.76 34.3%	1 -23.7	0.92 -34.3
化学物質使用量の削減	製品数	0	0	0	0	0	0	0
環境配慮製品の開発	度数	1	0	0	0	0	0	0

化学物質使用量の削減は、お客様のご要望に合わせて実施している

V. 環境活動計画、取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○ままだ △あまりできなかった ×全くできなかった

1. 二酸化炭素排出量の削減

環境活動計画	取組結果とその評価
今年度の目標:238.3kg-CO2/百万円 取組内容 1). 電力消費量の削減 ① コンプレッサエア漏れチェック、フィルター清掃 ② 成形機の冷却水管理や稼働率アップ ③ 受電装置の力率チェック ④ 空調機フィルター清掃、温度設定、on/off ⑤ 照明休憩時消灯、間引き、廊下消灯 2). ガソリン消費量の削減 ① タイヤ空気圧チェック、アイドリング時間設定 ② 急発進・急加速・空ふかしをしない ③ 構内掲示板設置、エコドライブ教育訓練	◎ 2022年11月～2023年10月の1年間活動実績としては、目標値に対し28.7%の削減となり、目標は達成できた。生産量の増加が続いているため、エネルギー投入量としては、増加しているが、売上100万円当たりの原単位では、大幅に削減できている。
次年度の取組内容 これまでと同様にグリーンカーテンやエコドライブを継続して行う。 再生可能エネルギー由来の電力や再生可能エネルギー導入についても検討していく。 また、機器の更新なども検討していく。	

2. 廃棄物排出量の削減

環境活動計画	取組結果とその評価
今年度の目標:5.38kg/百万円 取組内容 ① 樹脂の再使用率の向上 ② プラスチック材料別分別計量と重量把握 ③ 有価物分別	◎ 2022年11月～2023年10月の1年間活動実績では、目標値に対し16.7%の減少し、目標は達成できた。樹脂材料再生品使用のための粉碎機を成形機横に新規設置し作業効率を高めた生産の増加に伴い、廃棄物総量は増えてしまった。
次年度の取組内容 製品の歩留まりをより向上または安定させる工夫を行う。	

3. 総排水量の削減

環境活動計画	取組結果とその評価
今年度の目標:0.92m³/百万円 取組内容 生活排水の削減 ① 蛇口水量調整 ② 従業員啓蒙	◎ 2022年11月～2023年10月の1年間活動実績では、目標値に対し7.6%減少し、目標は達成出来た。 一昨年までは、夏季の水道使用量が多かった。暑さが厳しい期間の打ち水などで必要以上に水道を使っていたので、注意を払い年間を通し平準化した使用量になった。
次年度の取組内容 無駄にしない意識をもって取り組む	

4. 化学物質使用量の削減

環境活動計画	取組結果とその評価
今年度の目標:0を維持する 取組内容 ①お客様ご要望時期に合わせる削減活動 ②化学物質の取扱量管理(特定材料) 購入・使用・移動・排出・保管の量を把握 毎月実施	○ 2022年11月～2023年10月の1年間活動実績により、0を維持した 特定材料の取扱量を把握して化学物質量を管理した
次年度の取組内容 本年同様、把握管理する。 適切な目標があれば変更や追加を行う	

6. 製品への環境配慮

環境活動計画	取組結果とその評価
今年度の目標:同じ度数(1件)の製品への環境配慮を実施する 取組内容 ①環境負荷低減に資する製品開発・改良 製品開発・改良の実施	○ 2022年11月～2023年10月の1年間 新規に開始する製品については、環境に配慮した材料や製品性能の向上について、検討している。
次年度の取組内容 開発中の製品を製品化する。	

7. 緊急事態訓練の様子



VI. 環境関連法規等の遵守状況

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守確認事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・収集運搬、中間処理等の契約書の締結 ・マニフェスト管理 ・産業廃棄物管理票交付等状況報告書提出	遵法
消防法	・少量貯蔵届出 ・定期点検、点検記録	遵法
浄化槽法	・設置届 ・11条検査の実施及び記録の保管 ・水質検査記録 ・保守点検記録	遵法
PRTR法	・年間取扱量の把握及び監視 ⇒該当となった場合は要報告	遵法
フロン排出抑制法	・自主検査 ・定期検査	遵法

2. 違反、訴訟等の有無

違反はありません。

また、環境関連法規に関して、苦情や関係機関からの指摘はなく、訴訟も同様にありません。

VII. 代表者による全体の見直しの結果

今年度についても、受注状況は好調であった。

投入するエネルギーや資材は増えていると同時に廃棄物の量も増えているが、原単位としては大きく目標をクリアできている。

活動して目新しいことはないが、社員一人ひとりが省エネ、省資源に対し無意識に取り組んでいるからだと感じている。この先、生産状況に変化があっても、現在の状態から悪化させないように努めていく。